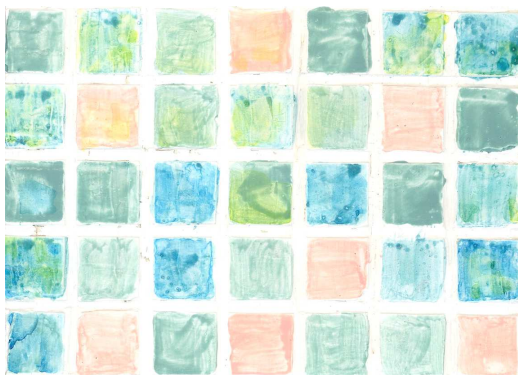




肺と肋骨と大胸筋ごと
切り取られた祖母の右の乳房と
残りの肺より呵々と
吐き出される彼女の笑い声と
風呂場にて大声で吟じられる
彼女の詩について。



大正モガ



この地域で三番目にシンガーのミシンを
買うたんじゃ。
裁縫の店を作って儲けたんじゃ。
元、殿さんの家の娘にも縫うてやったんじゃ。
馬具も作ったで。
爺は実家の近所に住み着いたんじゃ。
なかなか面白そうな男じゃけえ、
箸と茶碗を持って、小川の橋を渡って、
嫁に行つてやった。
娘の頃、村の祭りの見世物で狛を見たで。
目がこねえデカかった。火の玉も見たで。
夜ん空をずばばばあっと。ユーフォーじゃるか。
ああもう。こんなに瘦せてしもうて。
昔は肥えて、尻とかパンと格好良かったねえ。
戦後は払い下げの国有林を転売して儲けたで。
酒を振舞つて、ベロンベロンにさせてから
競りを始めたら、値が上がる上がる。
文化会館で絵を習うとるんじゃ。
あっ、もぐらじゃ。とっちめんといかん。
雨じゃ。干しとる梅干を入れんと。爺、早うせい。



婆の生業：なんかわからん。



ああ、暑い。
上を脱いで、
ちよいと汗を拭こう。
婆ちゃんの胸、
すごかろうが。
にゅーがんのしちつで
取っちしもうたんじゃ。
放射線で焼いとる。
すごかろうが。
つついてみるか。ほれほれ。
聡文、背中拭いてくれ。
そこ、痒い。もっと右。
牡丹餅もう一個喰わんか。
淡雪も有るで。
牛乳寒も好きじゃろうが。
のう、聡文。
録音の仕方を教えちくり。
風呂場で詩吟を謡うと
ええ声に響いて、
気分がええ。

無口

ににに

実は癩癢持ち



- (あんまりしゃべらない。)
- (いつもにににこしている。)
- (樽職人として丁稚奉公。)
- (宮崎で一度結婚。婆とは二度目。)
- (長男じゃないので家を出た。)
- (身長が低くて、新兵検査に落ちた。)
- (戦争には行っていない。)
- (行商途中で戦闘機からの機銃掃射に会った。)
- (命からがら、田んぼの側溝に逃げ込んだ。)
- (米作を頑張った。結構儲けた。)
- (嫁(私の母)に会計を教え込んだ。)
- (林業で結構儲けた。貸家も持った。)
- (煙草が好き。)
- (煙草で山火事起こした。)
- (酒が好き。飲むと良くしゃべる。)
- (刺身が好き。魚をさばくのがうまい。)
- (散歩が好き。てくてく歩く。)
- (ぼけて散歩して、電車を止めたことがある。)

爺の生業：なんかわからん。

爺婆の生業：百姓



百姓：百の生業を持つ者

なんや、かんやで、
しゃんとしとった。

タイトル： 本冊表紙記載

作者： 和田聡文

製作年： 2013年1～4月

素材： 木材（ファルカタ材）、
ポリスチレン板材、ネジ類、
アクリル絵具、ペンガラ、赤土、
モデリングペースト、
各種メディウム、
ガラスビーズ、つめた貝の殻、
中古MP3プレイヤー、アンプ、
配線材

内蔵曲： 80年代初頭ごろ、祖母自身
により詠唱、録音された音源を
元に、祖母の没後の88年頃に
作成。
デジタルエフェクタ等を使用。